

## 5. 検討会の開催

### 5.1 検討会の名称

令和4年度伊根町再エネ活用型地域振興策検討会

### 5.2 検討会の開催目的

本町における再生可能エネルギー活用型地域振興策の実現可能性の検討を行うため、「令和4年度 伊根町再エネ活用型地域振興策検討会」を設置し、以下の各事項について、検討会委員の助言を得ながら、その実現化に向けた検討を行うことを目的とした。

- 1) 【PJ1】 公共施設の再エネ電源化検討
- 2) 【PJ2】 E V活用デマンドタクシーの効果検証及び利活用検討
- 3) 【PJ3】 伊根町内における再エネ利用拡大に向けた事前検討
- 4) 上記のほか検討のために必要な事項

### 5.3 委員の選定

検討会の委員を表5-1に示す。

表5-1 委員名簿

委員区分	氏名（敬称略）	所属・役職	役職
有識者	佐藤 充※	福知山公立大学 地域経営学部	准教授
商工	亀井 徹	伊根町商工会	総括主事
観光	吉田 晃彦	一般社団法人 京都府北部地域連携都市圏振興社 伊根地域本部	事務局長
農業	小原 澄晴	伊根町農業委員会	会長
漁業	和久田 純子	京都府漁業協同組合 伊根支所	支所長
住民	太田 徳明	伊根地区区長協議会	会長
住民	下垣 啓	朝妻地区区長協議会	会長
住民	二ノ倉 芳樹	本庄地区区長協議会	会長
住民	大江 峰雄	筒川地区区長協議会	会長
社会福祉	佐藤 龍平	伊根町社会福祉協議会	事務局長
検討主体	吉本 秀樹	伊根町	町長

※座長

## 5.4 検討会の開催概要

検討会は、計3回開催した。

検討会の開催概要を表5-2～表5-4に示す。また、検討会での指摘事項をまとめた議事要旨を表5-5～表5-7に示す。

表5-2 第1回検討会の開催概要

日 時	令和4年9月2日 14時～15時30分
場 所	伊根町保健センター 運動指導室
出席人数	出席22名（うちWeb参加1名）、欠席2名
議 題	(1) 昨年度のまでの振り返りと今年度の実施内容について (2) 伊根町予約型乗合交通（いねタク）の効果測定・広報について (3) 本検討会での論点について (4) 意見交換

表5-3 第2回検討会の開催概要

日 時	令和4年11月25日 13時30分～15時30分
場 所	伊根町保健センター 運動指導室
出席人数	出席21名（うちWeb参加1名）、欠席3名
議 題	(1) 第1回検討会での指摘事項 (2) 公共施設での再エネ利用について (3) いねタクの効果測定及び利活用について (4) 漁業・農業分野での再エネ利用について (5) 意見交換

表5-4 第3回検討会の開催概要

日 時	令和5年2月24日 13時30分～15時30分
場 所	伊根町コミュニティセンターほっと館 多目的室
出席人数	出席20名（うちWeb参加2名）、欠席2名
議 題	(1) 第2回検討会での指摘事項 (2) 公共施設での再エネ利用について (3) いねタクの効果測定及び利活用について (4) 漁業・農業分野での再エネ利用について (5) 次年度の取組内容について (6) 意見交換

表 5-5 第 1 回検討会の議事要旨

(いねタクについて)

- 福祉有償運送といねタクとの棲み分けができてきているように思う。いねタクについても、公共機関やご近所、冠婚葬祭など、利用目的を広げてあげれば、広がっていくと思う。
- 周知用チラシの配布やホームページ等での周知の影響もあって、日を迫うごとに観光での利用が増えている。また、観光案内所内でも利用についての問い合わせが増えており、口頭での感想になるが、非常に便利だということで、さらに周知が進むと、もっと利用が増えるのではないかと。
- お年寄りの中には理解されていない方がいたり、タクシー慣れしていない方もいるので、利用の仕方についての周知も必要である。
- 一人暮らしの高齢者の中には、いねタクのスイッチを入れていなくて、こういう報告を聞かずにおられる方もいて、地区のほうでスイッチを入れてもらうようアナウンスしている。
- もう 1 時間遅くまでやってくれてもいいと思う。
- 利用者の声をアンケートでうまく吸い上げられたら、今後利用が促進していくのではと思う。

(漁業、農業分野での再エネ利用について)

- ハウスで使う電源の補填をするような使い方はあると思うが、農業では電気を使う月と使わない月が極端に違うので、農業のほかの機械、乾燥機とかに使う電源を、再エネを使ってというところかなり難しい。
- 漁業では皆さんが思われるよりも電気を使っている。町内の 3 つの漁港には流動ポールがあり、数十万円の電気代がかかっている。冷蔵庫や製氷を作る装置があると、夏場には 100 万円単位で費用が発生する。この一部でも再エネで賄えると魅力的で夢がある。

(全般)

- 災害時にも強いまちづくりという観点から、いねタクを災害時に対応できる電源供給源として考えていかれたらよいのではないかと。
- EV はいねタクが主だが、町有車を EV に切り替えて、十分(再エネの)発電量を稼いで、使って頂いたほうがよいのではないかと。
- 公用車も全部 EV 化して、平時・非常時を含めて考えていくと、すごく意味のある投資になるかもしれない。

表 5-6 第2回検討会の議事要旨

(いねタクの効果測定及び利活用について)

- サービスの満足度について、全世帯アンケートと利用者アンケートでスコアが異なっているものがある。どちらも利用者からの回答と思われるが、この要因について、データの精査をお願いしたい。
  - ▶ 全世帯アンケートには、利用していない方の回答が含まれている可能性があり、回答者種別を絞り込んで解析を行う。
- 予約のしやすさに関する満足度が全体的に少なく、改善が必要ではないか。
  - ▶ 実証実験時よりも簡単に予約できるように修正している。予約の画面や操作を変えるのか、予約に慣れておられない方に対して操作のご説明の機会を設けるのか、ご意見を頂戴しながら対応していきたい。
- 乗り継ぎの利便性が低い要因の分析や、いねタクの導入前と導入後の変化についても検討が必要である。
- いねタクの利便性向上に向けて、定期的にご利用する向けの1カ月券などがあれば、受け取り側も含めて煩雑さを軽減できるのではないか。
- 積雪対応として四輪駆動車が必要と思う。積雪地帯では必需品だと思うので、またご検討をお願いしたい。
- アンケートで改善点が見えているので、一つ一つに対応して利用をあげるようにしていただきたい。バス停への広告も貼れるようであれば、貼っていただくとよい。

(漁業、農業分野での再エネ利用について)

- 浄化センターは漁港施設内にはあるものの、漁業には関係のない施設であり、漁業と離して検討したほうがよい。
- 農業分野での再エネ利用について、検討会では致し方ないかもしれないが具体性が無い。
- この検討会での議論ではないのかもしれないが、ニラとか、ウドとか、全く日の当たらない状態で作れる作物を、誰が手を挙げてやるかというところまで踏み込んで、検討する必要があるのではないか。

(全般)

- 漁業、農業の分野における振興をどう進めていくかという大きな枠組みのなかに、再エネをどう位置付けていくかといった整理も大切になってきている。
- いねタクも、地域公共交通の在り方と、再エネを活用したEVタクシーをどうするかという繋がりがあった。検討会では、エネルギーサイドからの見方だと思うが、産業振興の在り方の検討も必要ではないか。

表 5-7 第3回検討会の議事要旨

(公共施設での再エネ利用について)

- 筒川地区コミュニティセンターについて、補助金を使うにしても過大な投資にならないように、他の施設での使用量等を見て判断してほしい。
  - 本庄の公民館の年間使用量を参考に発電規模を設定している。
- 蓄電池は必要ないのではないか。非常時にこれで賄うのか。
  - 平時でも発電していない時は蓄電池の電気を使う。災害が起こった時にこの蓄電池で丸一日、避難所として機能できる容量を設定している。これに加えて、ガス発電機もついて二重三重の対応を取る設計になっていると聞いている。

(いねタクの効果検証及び利活用について)

- いねタクの住民利用を増やすには、帰りの予約のマッチングの解消が必要と思う。
- 施設に来られた方の帰りの予約を施設側から取れるようにしてもらえるとありがたい。診療所からの帰りに1時間も待ったという話もあり、帰りが大変と聞いている。
  - 診療所は診察が終わったら、受付で帰りの予約をしてもらえるようになっている。保健センターは体操教室を委託している先生が事前の乗車予約や帰りの予約を取っている。泊泉苑でもしこのオペレーション業務を行っていただけるなら、予約システムに入って頂くアカウントを付与することは可能である。
- 今後利用が増えてきたときも3台のままで運行するのか。
  - 足りないということになれば、担当課としてそれを賄える体制を要求していく対応を取りたいと思っている。ただし、交通空白地有償運送では5台以上の車両を使用すると国家資格の運行管理者が必要となり、资格的な制限が出てくる。
- システム上、効率よく配車できるようなシステムになっているのか。
  - 先にある予約に対して、乗合が有効な場合は積極的に乗合を入れるようにしているが、ルートが大幅にずれるなどする場合は、運行の方で調整している。
- 観光でも利用できるようになり、宿泊されている方が動きやすくなっている。昨年までなかったものができているということで大変ありがたいと思う。

(漁業、農業分野での再エネ利用について)

- 漁業、農業について、再エネは難しいということであれば、新たな省エネ電源の開発等今後も検討していくことが大事と思う。
- 違う補助金を活用するとか、売電を視野に入れていかないと、広がりには難しいような気がする。

(全般)

- 地域振興の点では、地域住民の方々の生活のクオリティを上げていくことが究極の目標だと思うので、この点に重きを置きながら、この再エネ活用型地域振興を検討していくことが大切と思う。